



Xin Chao! Vietnam

ベトナムからこんにちは！

ベトナムの様々な情報を皆さまにお届けしているこのコーナー。

今回のテーマは、「服装・ファッション」です。

この連載を積み重ねていくことで、
いっそうベトナムを身近に感じて頂けたら幸いです。

その6 服装・ ファッション



ベトナム社会主義共和国
面積: 33万1,690km² (日本の0.88倍)
人口: 9,073万人
(2014年、出所: ベトナム統計総局 (GSO))
首都: ハノイ
(JETROホームページより)

皆さんこんにちは。グローバル推進チームの松山です。今回は「服装・ファッション」に関する情報をお届けします。

私がベトナムに初めて行った際、ベトナム人の服装を見て感じたことは、「すごくカラフルだなあ」ということです。特に若い女性は、全身赤、全身ピンク、全身紫という方が多くてびっくりしました。赤は縁起の良い色とされているせいでしょうか、赤系の色が好まれていいるようです。それもタイトなワンピースが多いです。

一方男性は、落ち着いた感じで、紺系のスラックスに白のワイシャツが多い印象です。職種や業界にもよりますが、ベトナムでは普段着とビジネス着との区別はそれほどなく、ビジネス現場で全身赤の方もよく見かけます。ネクタイをしているビジ



ジェック グローバル事業推進部
グローバル推進チーム リーダー

まつやま だいすけ

松山 大輔

ネスパーソンは、大きなセミナー会場では見かけますが、それ以外ではほぼ見かけません。年中クールビズの様相ですね。

街並みをバイクで走っている方を見ると、その大半は靴下を履いておらず、靴もサンダルです。短パンTシャツが基本です。





ベトナムの民族衣装



ジエック・ベトナム
取締役／コンサルタント

グエン・ティ・ホア・ムア

こんにちは。ベトナム現地法人のグエン・ティ・ホア・ムアです。

ベトナムの情報を提供するように年々1年以上がたち、第6回目です。今回はベトナムの「民族衣装」についてご紹介します。

「ベトナムの民族衣装はなんですか？」と聞かれると、多くの方は「アオザイ」と答えると思います。

実際、昔から北部と南部とは違う伝統的な民族衣装がありましたが、現在は「アオザイ」が共通なものになりました。

一般の印象では、アオザイは女性の衣装というイメージだと思えます。ところが実は、昔から男性や子供もアオザイを着ます。

アオザイの素材はシルクです。色は、女性のアオザイはカラフルで、男性は落ち着いた色を使います。女の子はピンクと黄色が人気で、男の子は水色が人気です。

昔は日常の生活でアオザイを使っていたのですが、現在、バイクに乗ることが多いため、アオザイを着る人は少なくなっています。

しかし、大切なイベントには皆がアオザイを着ます。例えば、自分の家族や親せきの結婚セレモニー、子供の結婚式、お正月などです。アオザイは民族の衣装だから大切な日に着るという理由もありますが、もう一つの理由は、アオザイが着る人のスタイルを最も美しく見せる服だからです。



小柄で細身の人は、ちよつと大きく見えますし、ふくよかな人はスリムに見えます。ですから、ベトナムに行ったら、スタイルをよく見せるアオザイをぜひオーダーしてみてください。

今回はアオザイについてご紹介しましたが、ベトナムには54の民族があり、各民族にそれぞれ伝統の衣装があります。今後機会があったら、それらもご紹介したいと思えます。またベトナムに行ったら、アオザイ以外の民族衣装もぜひ体験してみてください。

日本という夏と夏のビーチでの服装のようです。少し主要道路から外れると、上半身裸の男性もたくさんいます。

まだまだ一般家庭ではファッションに投資するという意識は薄いようですが、徐々にファストファッションの大手企業を中心に、ベトナムを市場として捉える動きが出てきました。昨年はZARAが1号店を開店していますし、H&Mとユニクロはホーチミンに今年出店予定という情報もあるようです。

アパレルに関しては、生産拠点としてのベトナムから市場としてのベトナムへ進化していると感じています。

内容に関するご意見やご感想をお待ちしています。

